

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 55人

② 算数 55人

5 留意事項

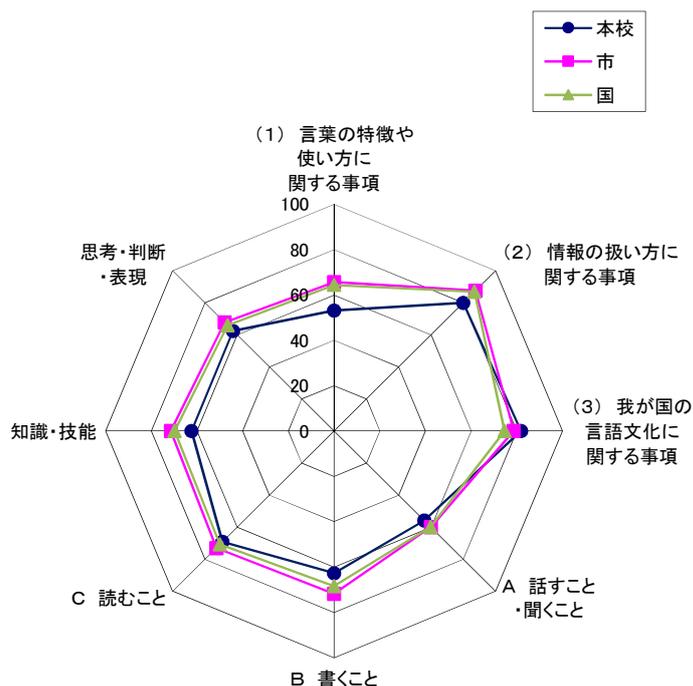
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	53.2	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方に関する事項	80.0	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	81.8	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	55.8	59.9	59.8
	B 書くこと	62.7	71.8	68.4
	C 読むこと	69.1	72.9	70.7
観点	知識・技能	62.4	71.5	69.8
	思考・判断・表現	62.5	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	●話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかみる問題では、正答率が63.6%であり、全国の平均より12.3ポイント低い。 ●文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかみる問題では、正答率が49.1%であり、全国の平均より13.2ポイント低い。	・AIDリルや国語辞典等を活用して、繰り返し書き言葉を練習する活動を取り入れるようにする。 ・文章を書く活動の際に、主語と述語、修飾語の関係を意識させながら、それぞれの役割を理解させていく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかみる問題では、正答率が80.0%であり、全国の平均より6.9ポイント低い。	・他の教科においても目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりする活動を取り入れ、考えを明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができるようにしていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができるかどうかみる問題では、正答率が81.8%であり、全国の平均より7.2ポイント高い。	・学習活動のあらゆる場面で図書や資料を用いて自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりして、自分の考えを広げられるよう指導を継続していく。
A 話すこと・聞くこと	○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかみる問題では、正答率が60.0%であり、全国の平均より7.1ポイント高い。 ●目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかみる問題では、正答率が45.5%であり、全国の平均より17ポイント低い。	・話し合いや意見を聞く場面では、自分の考えを広げたりまとめたりすることができるように、相手と自分の考えを比べながら聞いて伝え合う指導をしていく。
B 書くこと	●目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかみる問題では、正答率が70.9%であり、全国の平均より9.4ポイント低い。	・目的や意図を正しく読み取り、条件に沿って自分の意見とその理由をまとめ、書く指導をする。
C 読むこと	○人物像を具体的に想像することができるかどうかみる問題では、正答率が78.2%であり、全国の平均より5.7ポイント高い。 ●人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかみる問題では、正答率が65.5%であり、全国の平均より7.1ポイント低い。	・物語の読み取りでは、人物の気持ちを捉えることができるように、叙述を基に登場人物の気持ちを考えるように指導していく。 ・登場人物の気持ちを想像して物語に親しめるように読書の時間を確保したり、家庭での読書を啓発したりする。

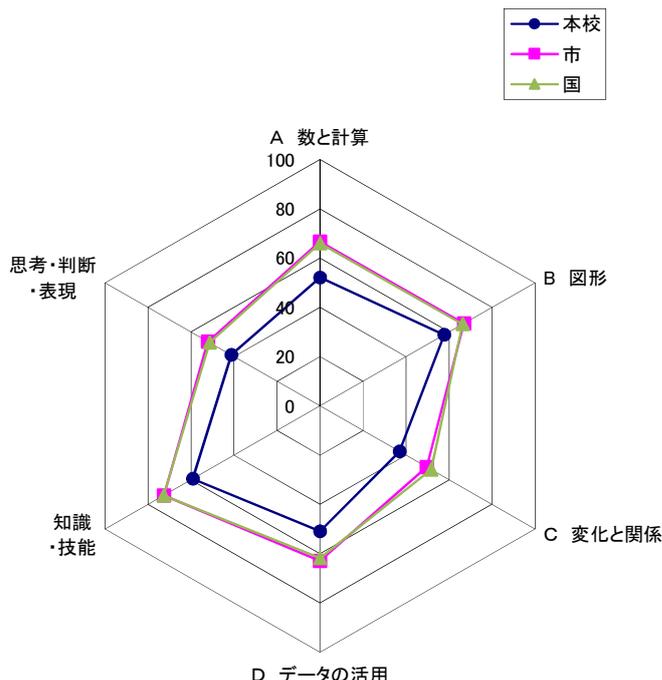


宇都宮市立清原中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	52.1	66.7	66.0
	B 図形	57.7	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	37.0	49.6	51.7
	D データの活用	50.9	62.9	61.8
観点	知識・技能	59.2	72.6	72.8
	思考・判断・表現	41.3	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>○計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかみる問題では、正答率が56.4%であり、全国と同程度である。</p> <p>●問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかみる問題では、正答率が34.5%であり、全国の平均より27.6ポイント低い。</p>	<p>・基本的な四則計算の力を高めるために、教科書の練習問題やドリルを反復して行う。</p> <p>・文章問題の内容を的確に捉え、正確に計算するために、処理の仕方について話し合ったり、個別指導を充実させたりする。</p>
B 図形	<p>●球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかみる問題では、正答率が20.0%であり、全国の平均より16.5ポイント低い。</p>	<p>・図形の性質をより深く理解できるよう、具体物を取り入れ性質の確認をするなど算数的活動を多く取り入れたり、ICTを効果的に活用したりした授業を工夫する。</p> <p>・図形の性質を理解したうえで、筋道を立てて考える活動を多く取り入れる。</p>
C 変化と関係	<p>●速さの意味について理解しているかどうかみる問題では、正答率が30.9%と全国の平均より23.2ポイント低い。</p>	<p>・学校生活の中で、身の回りで用いられている速さについて触れる機会を設け、速さを身近に感じさせ苦手意識をなくしていく</p> <p>・速さと道のりと距離の関係についての習熟を行う機会を取り入れる。</p>
D データの活用	<p>●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかみる問題では、正答率が29.1%と全国の平均に比べて14.9ポイント低い。</p>	<p>・他教科で表やグラフを扱う場合に、表やグラフから読み取ったことをもとにデータの特徴をまとめたり話し合ったりすることで、活用方法の幅を広げられるようにする。</p> <p>・一人一台端末を活用し、データを整理し、グラフに表すことのよさを実感させるとともに、日常的にデータを活用する機会を設ける。</p>

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「人の役に立つ人間になりたいと思う」についての肯定的回答が73.2%で、全国平均より2.2ポイント高い。他者への思いやりや心・気持ちが本校の教育活動全般を通して育まれてきていると考えられる。

○「いじめは、どんな理由があってもいけない」の肯定的回答が85.7%と全国平均より6.2ポイント高い。また「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した児童の割合も全国平均と同程度であり、人権意識が高い。

児童指導主任を中心とした「いじめはしない、させない、許さない」という全職員の意識の徹底、児童会による「いじめゼロ集会」の実施、生活目標による呼びかけなど様々な取り組みをしている成果が表れていることがうかがえる。引き続き、全職員で「いじめゼロ」を徹底させていく。また、今後も個人のよさを認め、よさを生かした活動につなげていけるように支援していきたい。

○「国語や算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか」についての質問の肯定的回答は、国語は73.2%で全国平均より11.4ポイント高く、算数では78.6%で全国平均より6.9ポイント高い。これらのことから児童は、将来を見据えたときに、国語・算数が役に立つから大切だと考えていることが分かる。

●「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」については肯定的回答が33.9%と全国平均より2.9ポイント低い。本校は隣接する清原工業団地があり、他地域よりも伝統的な行事を感じ取りにくいことや、家庭環境の影響も考えられるが、学校でも社会の授業などで地域のよさや地域の名所、行事などを伝えていきたい。

●「英語の勉強は好き」「英語の勉強は大切だと思う」「英語の授業内容はよく分かる」の質問については、肯定的回答がそれぞれ58.9%、87.5%、76.8%であり、全国平均より10.4ポイント、4.6ポイント、1.5ポイント低い。この結果から、英語の必要性、英語を実際に使うことに対して、自信がもてない児童が多いということが考えられる。タブレットを有効活用し、家庭でもいつでも英語の学習ができるようにすることで、児童が自信をもてるまで練習できるようにしていきたい。また授業内においては、英語を正しく使うことよりも相手とのコミュニケーションをとれる楽しさを感じられるような授業展開を目指していきたい。

宇都宮市立清原中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えをもち、主体的に取り組む児童の育成	自分の考えをきちんともてるよう、書く活動や問い返しなどを意図的に取り入れると共に、ペアやグループ学習を積極的に行い、主体的・協働的に考えを深め合えるための授業づくりに努めている。自分から進んで話し合いに参加できるようになるための手段の一つとしては、一人一台端末の活用を意識した取り組みを行っている。	「分からないことや詳しく知りたことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という設問の肯定的回答が、県の平均より1.4ポイント高い。ICT機器の活用について、「友達と協力しながら学習を進めることができる」「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」という設問の肯定的回答は、県の平均と同程度か、やや高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
学ぶことの大切さについて肯定的に捉えている児童が多いが、学んだことを日常生活に広げたり、定着させたりしようとする児童が少ない。	生きて働く「知識・技能」の習得を目指した指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な学習内容を確実に習得し活用できるよう、既習事項を繰り返し用いた授業を行う。 ・児童の学習意欲に応えられるよう、他の考え方を探してみる等の応用的な内容を取り入れる。 ・自主学習ノートで優れた内容のものを紹介する。 ・家庭学習の強調週間を設け、保護者が学習状況を把握できる機会を設ける。